

平成28年度第3回海外姉妹都市検討市民会議(平成28年12月1日開催)

作業部会の審議の結果を受け、『交流事業』については、「現地視察において、フォスターシティ市の意向や、その他の交流事業の可能性を探っていく」ことが決定し、『海外姉妹都市交流を実施する組織』については、「(仮)交流協会を立ち上げて、交流事業を実施していくのが望ましい。」ということで、「詳細については、次年度に準備会的な委員会を組織して、しっかりと時間をかけて検討を進める」ということが決定した。

また、現地視察のメンバーを決定した。

1. 交流事業について

作業部会の報告を受け、市民会議として交流事業をどうするか、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・盆栽や日本庭園は海外ですごく人気がある。
- ・芸術文化団体連合会では、フォスターシティ市にも芸術文化団体連合会のような組織があれば、そこを通じて交流を図っていけば少し前に進むのかと考えている。
- ・稲城市には、盆栽やお祭り、400年続く獅子舞など、向こうの方に見てもらえるものが本当にたくさんある。
- ・文化交流・教育交流からスタートしたら、交流し易くて良いと思う。

- ・あまり最初から色々なことをするのではなく、徐々に色々な交流へ広げて行けば良いと思う。

■結論

相手が求める交流が何かということもあるので、現地視察において、フォスターシティ市の意向や、その他の交流事業の可能性を探っていくことが決定した。

2. 海外姉妹都市交流を実施する組織について

作業部会の報告を受け、市民会議として海外姉妹都市交流を実施する組織をどうするか、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・国際交流協会という点では、近隣の協会のほとんどは、国内と海外を分けて事業を実施しているので、国内の事業と、海外の事業については、別途にやっけて行くのが良いとされていて、もちろん上手くいけば一緒にしても良いと思う。
- ・稲城市はそんなに大きな町ではないので、国内にしる、海外にしる、姉妹都市・友好都市の交流部門の組織は、1つの方がパワーが付くと思う。こういう形でまとまっていけないと厳しい。
- ・提携後よりも提携に向けて盛り上がらないといけないので、提携してから組織を立ち上げるというのではなく、タイムスケジュールに合わせる形で、こちら側でも何らかの組織を動かして行かないといけないと思う。
- ・「稲城が姉妹都市と、こんな交流事業をしているんだ」と自慢できるような事業ができると良い。
- ・稲城を経由して、国内の姉妹都市・友好都市に行けるようなことも考えられるかと思う。
- ・他都市の交流協会、国際交流協会を見ると、その仕事の8割以上が内なる国際化の仕事(在住外国人の抱えている問題への対応)になっていて、外との交流事業は、少し発展した一部の活動である。

■結論

市民会議としては、「(仮)交流協会を立ち上げて、交流事業を実施していくのが望ましい。」ということと、「詳細については、次年度に準備会的な委員会を組織して、しっかりと時間をかけて検討を進める」ということが決定した。

3. 現地視察について

第2回市民会議において、事務局で委員長にご相談しながら、調整することとなっていた現地視察のメンバーについて報告するとともに、視察内容等について意見交換を行った。

(主な意見)

- ・向こうの方が稲城市をある程度イメージができて、そして、「こんな素晴らしい所だったら是非やってみたい」と思ってもらえるような資料を準備すると良い。
- ・近いうちに向こうからどなたかに来ていただき、稲城を実際に見てもらえば、理解が均衡できて、もっと実質的な議論が進んでいくのではないかと思う。
- ・委員の方は、組織から推薦された代表者なので、それぞれ自身の出身母体で、こういう交流について、「やりたい」或いは「聞きたい」ということがあったら、3つくらいに絞って挙げていただきたい。各委員に聞いた質問事項については、カテゴリーごとに箇条書きにし、英語に訳して、「視察の際に分かる範囲で回答が欲しい」旨の依頼を事前に向こうに送ると、視察の成果も上がる。
- ・事務局で、視察参加者の名刺を用意して欲しい。

■結論

現地視察のメンバーについては、以下の3名に決した。

- (1) 安東 道正 副委員長 [市民会議を代表する立場、文化交流関係]
- (2) 中家 敬士 作業部会長 [市民会議を代表する立場、スポーツ交流関係]
- (3) 原 忠男 委員 [公募市民(海外生活経験・国際交流実績等)]